



渡邊錠太郎ゆかりの品が寄贈されました

激動の昭和戦前史を物語る 2.26 事件。当時陸軍教育総監であった渡邊錠太郎もその襲撃の対象となり、同日に命を落としています。その襲撃になった現場が、杉並の上荻にあった渡邊の自宅でした。

このたび、渡邊錠太郎の縁戚の方から錠太郎ゆかりの品計 62 点を寄贈いただきました。その中には 2.26 事件当日の様子を伝えるものも含まれています。寄贈いただいた江崎ひな子様には区長より感謝状を贈呈しました。

昭和 11 年 2 月 26 日未明に 8 カ所の現場で起きた 2.26 事件。その現場の一つは杉並の閑静な住宅街でした。襲撃の対象となったのは陸軍教育総監・渡邊錠太郎。上荻の自宅にいた渡邊は銃弾に倒れます。ベストセラー『置かれた場所で咲きなさい』で知られる次女の渡邊和子さんは現場に居合わせており、襲撃を受けた際、父・錠太郎が和子さんを座卓の影に隠れさせたことなど、当時の様子を著書に記しています。



この 2.26 事件の現場となった渡邊錠太郎邸は既に解体されていますが、解体時に弾痕のある壁面や和子さんが身を隠した座卓など、その部材の一部等は、渡邊錠太郎関係資料とともに杉並区に寄贈され、区指定文化財となっています。

今回、渡邊錠太郎ゆかりの品々をご寄贈いただいた江崎ひな子さんにとって渡邊錠太郎は夫の大伯父にあたります。夫の父が錠太郎の資料を収集していましたが、その資料を引き継いだ夫が亡くなったことから、故人の遺志も踏まえて杉並区に寄贈いただくはこびとなりました。資料は計 62 点にのぼり、渡邊が使用していた軍帽・手袋、書籍類や履歴書、肖像写真、徳川家から贈られたと伝わる羽織など、渡邊錠太郎の人となりを感じさせるものです。また、関係資料のスクラップの中には、事件当日、渡邊の妻・すずが愛知県小牧市に住む甥を呼び寄せる緊迫した内容の電報など、2.26 事件を物語る重要な資料となるものも含まれています。

6 月 29 日、区役所において感謝状贈呈式が行われ、区長が謝意を表しました。感謝状を代理で受け取ったひな子さんの長女、安田初子さんとその夫の武司さんは、「渡邊錠太郎が住んでいた杉並区で、寄贈した資料が生かされ、歴史的一幕が風化されることなく伝わっていけばと思います。」と話していました。

【問い合わせ先】

教育委員会事務局生涯学習推進課：03-3312-2111（内線1661）
杉並区立郷土博物館：03-3317-0841
総務部広報課：03-3312-2111（代表）